ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行２０２０年１２月１日

12月　第２２６号

奈良・人と自然の会

＜竹林にはびこる枯死木の伐倒整備（佐保自然の森）＞

Contents

ホームページでは、カラーで見ることができます

URL http://www.naranature.com

壮春力歩	1	私のふるさと	8
Monthly Repo ならやま	2	字遊字感	9
里山の今・花だより	3・4	Galleryならやま	10
病害虫講座	5	ならやまプロジェクト	11
芋ほりイベント・レポ	6	行事案内	12
佐保台小稲刈り・レポ	7	幹事会報告・編集後記	13

壮春力歩　若い力に期待

会長　鈴木 末一

会創立 19 年目、ならやまプロジェクト 14 年目の今年は、新型コロナウイルスの猛威で、生活スタイルを 180 度転換せざるを得ない状況に追いやられました。言うまでもなく、ボランティア活動でも感染防止のため、全面的な活動自粛に始まり、イベントの中止や縮小と、あらゆる場面で適切な判断と共通の理解を図らなければなりませんでした。

9 月以降は徐々に通常の活動へと復帰するようにはなりましたが、「3 密」を避けることや、うがいや手洗いの励行、体温測定などのコロナ禍における活動ルールの順守を常に呼びかけてきました。こうした例年には見られない活動風景の中で、建築を学ぶ若者との出会いがありました。11 月号で簡単に触れましたが、その後の経緯は会の未来を展望するうえで、大いに期待できる展開となったことを特筆しておきます。

東大寺は学問の寺です。奈良時代には「六宗兼学」、平安時代を経て「八宗兼学」と言われました。奈良時代以来の建築物を多く伝え、建築界のノーベル賞と呼ばれるブリッカー賞の授賞式が国内で初めて開催されたこともあり、東大寺は建築学の聖地とされています。

運営スタッフを含む全国の大学生 34 名が参加、「ワークショップ東大寺」が９月２０日に開催され、小さな建築物８体が東大寺境内周辺を飾りました。その資材支援をしたことから当会と若者との縁が深まり、なかでも衣笠恭平（京都工芸繊維大１年）、天野萌絵（金沢大１年）、佐久間実季（奈良女子大３年）、岩田采子（東京理科大修士課程２年）の皆さんが、特に当会の活動に興味を抱いてくれました。衣笠君に、創立２０周年記念モニュメントの制作についての話題を投げかけたところ、なんと、制作過程の輪の中に是非とも加わりたいと声を挙げてくれました。衣笠君はならやま活動の実情に触れたいと、学業の合間を見つけて、10 月中に 3 回も足を運んでくれました。学生諸君の熱意は日増しに高まり、12 月に開催予定の 20 周年記念事業企画委員会に同席してもらうことになりました。

会創立 20 周年のキャッチフレーズは「20 年出会いかさねて　ひろがる未来」です。大学生諸君との縁は、まさにキャッチフレーズの具現化の一例そのものだと言えるかと思います。

シニアの私たちには思いもよらぬ斬新な発想が提起され、度肝を抜かれるような場面に出くわすこともあるかと思いますので、その都度、会員の皆さま方に情報を提供するつもりです。

「佐保地区（佐保、佐保川、佐保台）は『過去と未来をつなぐ街』」とは、仲川奈良市長の提言です。歴史的風土と自然環境に恵まれた景観を次世代に引き継ぐために、私たちの活動理念、コンセプトの集大成になるような「記念モニュメント」が制作され、会員と未来の子供らをつなぐ「夢の懸け橋」になればと念じています。

学生諸君は、これまでに数回の情報交換を行い、すでに次のようなアイデアと制作方針が浮上しつつあるとのことです。

・自然と一体化していくようなオブジェ
・自然へ帰る
・自然によって形態が変化する
・オブジェだけど遊具みたいなもの
・子どもが参加できるもの
・子どもたちと交流が持てるもの
・自然と共存できるようなもの
・土がたまっていき、草花が育っていく
・こじんまりしてあまり目立たないもの
・それでいて環境に馴染んでいくもの
・子どもたちが自由に遊ぶことができるもの

また、「夏休みなどに子どもたちと一緒に制作できたら面白いな」という声も出ているとのことです。

ますます若い力に期待がかかります。

Monthly Repo.　ならやま

徳地 恵男

10 月 22 日（木）　活動　曇り　　76 名
実習生５名 近大生４名 大学生１名

天候が心配されたが、稲刈りが実施される。佐保台小学校５年生 28 名の貴重な体験の場となる。朝の打ち合せで「山もり・てんこ森」の報告とお礼の言葉がある。里山 G は景観 G と合同で佐保自然の森の木の伐採、下草刈りをして一気に作業ははかどる。エコ G は午前中稲刈り、午後はダイコン、小松菜の間引きと施肥をする。ビオ班は水路周辺の草刈り、花班は春に咲く花の種まき、コスモスの撤去をする。パト G は観察路尾根道の草刈り、BC の階段補修をする。果樹Gは実りの森の除草を行う。併せて午後プロジェクト委員会を開く。

10 月 24 日（土）　イベント　晴れ　19 名
佐保台小 72 名（子供 31 名　保護者 41）
会員家族 22 名（子供 11　保護者 11）

秋晴れの下、恒例の芋掘りイベントが実施される。佐保台小と家族会員が多数集まり、一家族５株を力合わせて収穫する。あちこちで歓声が上がり、エコ G の苦労が報われる日となる。

10 月 29 日（木）　活動　晴れ　　86 名
実習生１名　　近大生３名

里山 G は景観 G と共に佐保自然の森の整備、午後はミーティングの時間をとる。エコ G は稲の脱穀作業を行い小学校５年生も体験する。ビオ班は近大生と共に水生生物調査、花班は山野草園の草取りをする。パト G は観察路の整備、果樹 G は実りの森 B 地区の整備を行う。

11 月５日（木）　活動　晴れ　　83 名
近大生２名

協働作業日として佐保自然の森の竹林整備に大勢が参加する。刈り取った枝や笹をみんなで一定の場所に集める。暗かった竹林は光が差し込み、見通しがよくなる。同時に水路整備が完了した緑陰広場へ軽トラで真砂土を何度も運び込む。お昼になる。今日から待望の汁物が賄い当番により用意される。秋空の下、みんなでいただく味噌汁に思わず「うまい」の声がもれる。

午後からは各グループの活動に入り、予定した作業を進めていく。

11 月 12 日（木）活動　晴れ　　84 名
実習生１名

秋が深まり活動に最適の時期到来。各グループの作業が進む。今週からパト G を中心に展望広場の整備に着手する。里山 G と景観 G は前週に引き続き佐保自然の森の整備、クラブ・ユートピアは実験区の下草刈りを行う。エコ G は冬野菜の移植と間引き、コカブ、ネギ、菊芋等の収穫を行う。ビオ班は水路の草刈り、花班はチューリップ球根の植え付けを終える。果樹 G はタイサンボクの植樹と柑橘類への施肥を行う。

11 月 19 日（木）活動　晴れ　　79 名
実習生１名　　近大生１名

汗ばむ一日となる。朝の打合せでは今年初めてとなる月例研修会、歴文クラブの催しの案内がある。里山 G は今週からシイタケ栽培用の榾木コナラの伐採を始める。エコ G は秋野菜の収穫、畑にチップ入れをする。午後からは作業と並行してプロジェクト委員会を実施する。

里山グループ

◆里山林整備の方向性と課題

山本 隆造

里山グループではナラ枯れによる枯損木の処理が一段落した今、実施してきた整備活動を整理し、グループ内の意思統一を図りながら、今後の整備方針、具体的活動の方向性を定めるため、グループ会議を重ねている。課題、方向性について２～３紹介する。

1.ならやま里山林整備の基本方針

2010 年先輩方により基本方針が定められた。

① 古都奈良の歴史的風土にふさわしい景観形成活動を基本コンセプトとする。

② 豊かな自然の形成：具体的には里山の生態系の保存と世代更新の確保を活動目標とする。

基本方針に基づき、これまで里山林の整備をしてきたが、今後もこの基本方針を維持する。

2.どのような里山林を目指すのか

ならやまの里山林は、昔アカマツを中心とした林分であったと聞くが、現在のコナラを中心とした雑木林に遷移した。この現状を受け入れ、「クヌギ・コナラなど落葉広葉樹を中心とした里山林」を目指す。イメージ的には、文部省唱歌の「紅葉（もみじ）」にあるような里山林。

3.里山林の更新・再生の促進

更新・再生の方法として強間伐と部分皆伐による方法がある。これまで 300 余本のクヌギ、コナラを植樹してきた。部分皆伐地区では植樹した苗が順調に生育しており、更新・再生に有効と判断。部分皆伐の方向で進める。

シイタケ榾木などに利用する木は、世代更新、薪材確保の意味で大径木を優先して伐採する。

4.人手・人材不足

里山グループは守備範囲の広さと作業量に比し人員が不足している。高齢化による人員の減少も予想され、次世代の人材育成が急がれる。里山に興味のある方はぜひご参加を。

エコグループ

◆田畑に愛称をつけました

吉川 利文

ならやまの田畑に愛称を付けました。いま田畑のあちこちに銘板が気恥ずかしそうに立っている、あれです。

エコファームは「プロジェクトプランツとエンジョイプランツ」という車の両輪のような基本方針で進められています。エンジョイプランツは会員が農作業や作物に愛着を持って活動し、自然や景観保全に貢献しようというものです。グループでは、さらに愛着を深めようと昨秋から、愛称づくりに取り組みました。中には「番号を振るだけでいい」といった“機能”重視派もおられました。そんな意向も酌みつつ、思い切った遊び心も盛り込みました。

その典型が水田のある西地区です。毎年小学生が田植えや刈り入れを体験しに来ます。その意義を込めて北の水田を「はぐくみ」、南の水田を「未来っこ」と名づけ、半面、周囲に点在する畑を西から「西―１」「西―２」…と機械的にナンバリングしました。

同様に、ベースキャンプ東側の大きな畑は、花も野菜も果実も華々しく成育しているので「花野果（はなやか）」と思いっきり遊び、その代わり、サイクリングロードから南に並ぶ畑たちを「南―１」「南―２」…と番号を振るだけにとどめました。

平城宮跡の一角とあって雅やかさも、と農小屋の東側は年中緑の野菜が植わっているので「常盤（ときわ）」とし、また、サイクリングロードがたおやかにカーブしている東側の畑は万葉集にある「佐用姫（さよひめ）」としました。第２駐車場の車列の前の高台にある細長い畑は、その形状からずばり「天の川」です。

たかが愛称、されど愛称。そんな愛称に“せめて実りへの応援歌になってくれれば”との願いを込めています。

パトロールグループ

◆観察路の現状と13年前の思い出

守口 京子

夏の終わりの観察路は山の中の至る所で雑草に覆われ、倒木につる草がからまり、行く手を阻まれる状態でした。どのグループも草刈りに大忙し。そのおかげで９月になると、ちょっとずつ歩きやすくなってきました。

先日の台風の後は枯れ木の倒木が何本か見られました。「ならやま自然の森」は、自然のまま見守り、観察路のみ整備する方針で活動してきたので、谷道周辺はナラ枯れの被害木がたくさん立ったままで残っています。それらが虫やキノコや微生物などに侵されやせ細り、強風に耐えきれずに順次倒れていきます。10mを超える高木が、周囲の樹木や藪笹をなぎ倒し、砕け散りながら、観察路ふさいで倒れている様子はすさまじいものです。倒れた瞬間はさぞかし大きな地響きがしたことでしょう。

草刈りをしながら13年前のことを思い出しました。今の第２駐車場のあたりだったか、参加者みんなで刈り払い機や鎌でササを刈り、チッパーで砕いていました。ビイーンビイーン、バリバリバリ。するとゴルフボールくらいの茶色の小動物（希少種）が出てきたのです。草で編んだかご状の巣も見つかりました。ご記憶の方もおられると思います。「せっかく良い所で平和に暮らしていたのに、人間は一体何してくれるんや！」と多分怒りながら逃げて行きました。かわいそうなことをしました。

自然を守るとか、自然と共生するとか、言うは易く、行うのは本当に難しいことと感じています。大事なことは必要なことだけする、不要なことはしないことだと思います。

谷道のボタンイボタケ

花だより

◆ススキ（薄・芒）

山本 美智子

尾花の名でも呼ばれ、中秋の名月には欠かせない秋の七草の一つ。詩歌、絵画に、子どもの戯れに、また枯れる様に美しい滅びの風情を味わったり、日本人には当たり前になじみの深い草です。日本全土、田園風景の中、山野のいたるところに生え、高さ１～２mの大型の多年草。茎は叢生して株をつくる。花は穂につき金色に、開花が終わる穂は銀色に輝く。変異の仲間に「ムラサキススキ」「イトススキ」、暖地の海岸には大型の「ハチジョウススキ」、観賞用に「タカノハススキ」が栽培されている。

かつて、ススキの茅は炭俵や一般の住宅の屋根を葺く材料に、また農耕用の家畜の飼料や田畑にすき込む肥料としても重用で身近な必需品であった。里山近くの低山や丘陵地にはススキの原が茅場と呼ばれ、村単位の共有地として大切に管理されていた。時代と共にその需要もなく茅場も不要となり、そのまま放置されたりスギやヒノキの植林地となり、またゴルフ場に開発されたりして、県内で現在残っているのは宇陀の曽爾高原のススキの原だけで、観光、ハイキング、自然観察、体験学習の場として、国立少年自然の家に利用されている。コロナ禍の今年、和歌山の小石高原や曽爾高原への行楽は大変にぎわったと・・・。三密を避けるべく、のはずがという映像を最近目にした。美しいススキ草原の維持には定期的に伐採し、火入れして焼き払う等、人為的な管理が不可欠。自然にといえど、何もしないで放置すればススキの裸地は林から森へ数年で戻ってしまう。私たちのならやまの活動とも相通じる。曽爾高原では毎年、雪が消え、茅が乾いた三月下旬に山焼きが行われる。現代の若草山の一月の山焼きもしかり。ススキの穂を手折り、名月と共に楽しむ。そんな生活を大切にしたいと願いつつ、身近なススキに思いをはせました。

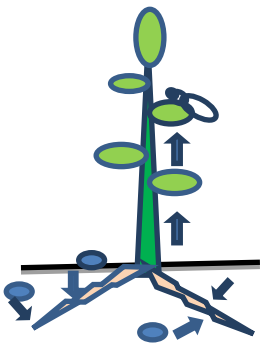
やさしい病害虫講座　38
粒状の殺虫剤

木村 裕

害虫の防除薬剤には、水に溶かして噴霧器で散布する薬剤、容器がそのまま噴霧器になっているスプレー剤、薬剤そのものを株もとに散布する粒剤などがあります。なかでも粒剤は散布器具が不要で、かつ地面にばらまくだけでよいので利用される方が多いようです。狙う害虫によってうまく使い分ければ便利なものです。

１．汁を吸う害虫（アブラムシ、アザミウマ、コナジラミ）

これらの虫は野菜や花の新芽や新葉に寄生しますが、植え付け時に粒剤を地表面にばらまいたり、地中に混ぜ込んだりしておくと、殺虫成分が植物体内を移行して葉や茎の上で汁を吸っている虫を防除します。しかし木の上にいる虫に対しては残念ながら効果は期待できません。「アドマイヤー１粒剤、アルバリン粒剤、オルトラン粒剤」などがあります。また、アルバリン粒剤はハモグリバエ類にも効果があります。



２．コガネムシ類の幼虫

大きさは小さいですが、カブトムシの幼虫そっくりな虫が根をかじります。一株に５～６匹も集まれば根がなくなります。

畑を準備したときに土の中に「ダイアジノン粒剤５」を混ぜ込んでおくと被害は軽減されます。堆肥や落ち葉をたくさん入れた畑では発生が多くなりますので要注意。

３．ダンゴムシ

植木鉢を除けると、「何だ！何だ！」とぼやきながら四方に散らばってゆくダンゴムシは昆虫ではありませんが、皆さん方にとっては不快な虫でしょう。しかし幼児にとってはよきお友達のようで、手にとっては楽しんでいます。

体は丈夫な甲羅で覆われており、脚はたくさんあり、成虫も幼虫も同じ姿をしています。お仲間は昆虫ではなくてエビ・カニです。

普段は落ち葉を食べて掃除に一役かっていますが、小さな苗を植えると寄り集まってきて、葉や茎を遠慮なく食べ散らかします。

被害が目に余るときは、好物の餌「デナポンベイト」で釣って防除します。この薬剤は水に溶けやすいので雨の日の餌付けはやめましょう。

４．ネキリムシ

植えたばかりの幼苗の茎を地際でチョキンと切って倒し、おもむろに葉や茎を食い散らかしますが犯人の虫はなかなか見つかりません。

地面を浅く掘って虫が見つからないときは、好物の餌「ガードベイト A」をばらまいて様子を見ましょう。薬剤は水に弱いので雨天の日は避けるようにしてください。

５．ナメクジ

日中は土の中で昼寝をして夜になると眼をランランと光らせ、幼苗の葉を食い荒らします。被害跡にはナメクジ特有の粘液が残っています。

雨の降らない日を見計らって好物のメタアルデヒドの含まれた「ナメクジ用の薬剤」をばらまきます。

６．センチュウ

根にこぶをつくる糸状の虫で、目には見えません。堆肥や落ち葉の中で見つかるセンチュウは無害で、根こぶはつくりません。

非常に防除の難しい虫です。畑を準備したときに「ネマトリンエース」を混ぜ込んでおくと効果があると言われていますが、私はまだ実験したことがありませんので、効果のほどは不明。

私はキュウリなどセンチュウの好きな野菜を植えるとき、株の周りにマリーゴールドを植えて被害を回避しています。

芋掘りイベント・レポ

田中 善英

10 月 24 日、恒例の芋掘りイベントの日を迎えました。コロナ渦の中、開催も危ぶまれましたが、佐保台小学校の子どもたちと会員の家族を招待して開催することになりました。いよいよエコグループが丹精を込めたサツマイモのお披露目です。関係者の熱意が伝わったのか、昨日の雨も上がり、秋晴れの日になりました。

9 時にスタッフが集合して全体ミーティングと準備、サツマイモ畑の確認。芋畑の土は少し湿っているものの、芋掘りには絶好の状態でした。また芋のつるも非常に元気で、サツマイモも土の中で暴れて広がっており、収穫が期待できる反面、掘るのに注意が必要なようです。

8 時 50 分頃には佐保台小学校のコーディネータの方も到着し、一緒に受付の準備が始まりました。今年は三密を避けるため、事前に佐保台小学校の家族の組分けをしてもらい、会員家族とは別の班にするなど、種々の感染防止対策を行っての開催となりました。

9時30分頃から参加する家族が自動車や自転車、徒歩で到着し、10 時前には全員が集まりました。子どもたちの声でベースキャンプが一気ににぎやかになりました。

準備が整った 10 時、佐保台小学校：25 家族 72 名（児童 28 名、未就学児童 14 名、保護者 30 名）、会員家族：6 家族 22 名（児童 8 名、未就学児童 3 名、保護者 11 名）、スタッフ：19 名の計 113 名が一堂に会しての開会式が始まりました。会長のお芋の話も交えた挨拶があり、続いて注意事項を説明（三密を避ける、危険生物）してから、一斉に芋畑に移動しました。

佐保台小学校は 6 班（各班 4～5 家族）、会員家族は 1 班（6 家族）に分かれ、家族間は 1m以上の間隔をとって、それぞれの区画で掘り始めました。おっかなビックリでノコギリ鎌を持ってイモのつるを切り、みんなで協力してサツマイモを掘る。一家族で 5 株。あちこちで「大きい」、「一杯繋がっている」という歓声があがる。お母さんの「頑張れ」という声も聞こえる。みんなの笑顔がはじけました。

会員は子どもの手伝いや掘り出したさつまいもを一カ所に集めて分類してお土産用の袋に詰め、大きいお芋を探すなど、大忙しでした。

その間に里山に 600 種類の昆虫がすんでいる事や、植物の豊かさ、大切さを説明すると共に、収穫した芋は 800 個、一番大きいお芋は大人の顔と同じくらいの長さだったことを紹介しました。最後に収穫したお芋をお土産に、子どもたちの「楽しかった」という言葉とともに 11 時 30 分、閉会となりました。

佐保台小学校　稲刈り・脱穀学習レポ

稲刈り、脱穀体験を通して

佐竹 樹之

日頃、我々大人だけが集い活動するフィールドに、小学生約 30 名が先生方と来て、にぎやかな雰囲気の中で、稲刈りや脱穀作業が始められた。体験学習の主旨や作業説明と注意点等が話され、いよいよ児童たちが田んぼに入り、まず鎌を使った手刈りが始まった。見ていると、

稲の株元を手で持ち、何回も鎌を動かしながら株を切りあぜに運んでいる子、田んぼの中の昆虫に見とれて夢中になり手元がじっとしがちな子、足元のぬかるみに体の動きが奪われ右往左往している子等、様々な反応をしつつ皆で協力して稲を刈り終えた。その後、株をひもで束ねる作業の時は、作業説明を聞き洩らしたのか、

うまく束ねられずに四苦八苦している子、ひもの最後の束ね方が分からずそのままにして置いて行く子らもいて、少々驚く場面があった。最近は日常生活の中で、ひもで物をくくったりする事が減ってきてできないのかと感じた。次に束ねた稲を竹で作った馬（干す台）に架けて干し、その日は無事終了した。

翌週は、干した稲をコンバインや足踏み式脱穀機やもみすり機で玄米にする作業を体験した。私が子供時代に使っていたような足踏み式脱穀機は、とても懐かしく当時を思い出しながら作業をしてみたが、想像より難しく稲の動かし方にも方法があり、奥が深いなとつくづく感心した。児童たちもコンバインや足踏み式脱穀機等で、次々ともみとわらができてゆくのを楽しそうに体験していた。児童たちの中の一人が帰り際に「今日は楽しかった、ありがとうございました」と言ってくれ、世話をする一人として、児童たちが体験できてとてもうれしく思った。

近年「食育」という言葉をよく耳にするが人間は自分たちが生きてゆくために、他の「命」を頂くことで、生き延びることができた。私たちが日常口にする食糧のほとんどのものは、生産する人がいて、流通に関わる人がいて、販売する人がいて、それら食糧で食事を作る人がいて、どの人が欠けても私たちは生きてゆくことが困難である。以前ある小学生が「じゃがいも」が枝になる絵を描いていたことがニュースになっていたが、実際にじゃがいもが生産される場に立ち会わないと分からない事である。そうした観点から、私たちが日頃食べている「お米」が、どんな所で育ちどんな方法で米粒になるのかを、自分自身の目で見ることは、正に「百聞は一見に如かず」で、とても大切な事だと痛感した。ましてや、近頃の児童たちの多くは、はだしで土に触れることが少ないだろうし、このフィールドのような場所で遊ぶことも少ないであろうから、自然のエネルギーを直接自分の五感で体験し、その力強さや大きさを体全体で感じ取って欲しいなと思った。自然は優しくもあり、時には厳しい一面も持ち合わせているが、私たち人間は自然を征服するのではなく、自然にあわせつつ共存してゆく生き方を目指してゆかねばと思う。児童たちと短い時間ではあったが、共に時間を過ごす中で、改めて「自然と仲良く生きる」事の大切さを教えてもらった気がした。

私のふるさと

石田 隆久

皆さんの記憶に新しい 2020.08.17 午後 0 時 10 分、浜松市中区で国内観測史上最高気温と並ぶ 41.1℃を記録しました。この浜松市中区が「私のふるさと」です。過去の 41.1℃は埼玉県熊谷市で 2018 年 7 月 23 日に観測されています。浜松市は人口約 80 万人の政令指定都市です。静岡県の沿岸部に位置し、海岸沿いに広がる中田島砂丘はアカウミガメの産卵地です。ランドマークとしてはハーモニカをモチーフにした「超高層ビル・アクトタワー」が浜松駅前にあり、その近くには世界中の楽器を展示している浜松市楽器博物館があります。郊外には女性樹木医第一号が理事長をしている「はままつフラワーパーク」もあります。浜松市には全市民が熱狂する「浜松まつり」が、毎年５月のゴールデンウイーク、３日～５日に開催されます。昼は前述の中田島砂丘での子供の誕生を祝った大凧(だこ)揚げです。夜は各町の誇る御殿屋台の引き回しが、浜松駅前を中心として夜遅くまで演じられます。御殿屋台の上でおはやしが三味線太鼓などにぎやかに演奏されます。それは豪華絢爛(けんらん)です。また浜松には徳川家康の出世城が再建されています。若き徳川家康が、織田信長に恭順を示すために奥さんや長男を亡くしてしまう戦国時代のむごたらしい現実が広がっています。そのために大御所であった静岡市とは一味違う徳川家康感が浜松市民にはあるようです。

中学時代の塾の同窓会、「はままつフラワーパーク」玄関で徳川家康マスコットと友人との懐かしい思い出。

工業の面では、浜松市は三大メーカー、ヤマハ、スズキ、ホンダの工場があり、楽器、オートバイ、車の一大生産地です。いわゆる工業都市です。私はそのなかのヤマハに所属し、今回のコロナ禍で日本は遅れていることが再確認されたデジタル分野を担当しました。コンピューターの草分け時代で働き方は猛烈で現代では働き方改革が要求される典型的な分野でした。しかしそのためもあり、出張はアメリカ、中国などもありましたが、転勤は一度も経験しませんでした。愚直な技術屋として生産管理のデジタル化一筋に過ごしてきました。65 歳までは仕事中心の人生でした。その後、理工バカ的な生活を打破しようと、京都・奈良検定へと幅を広げました。また古代史などに興味があり系統的に学びたいと考え奈良大学の通信学部の３年に編入しました。卒論は浜松市からたくさん出土している「銅鐸」をテーマにチャレンジしました。銅鐸は有名な「卑弥呼」の時代に廃れていく祭器でした。少し遅かったのですが７２歳を過ぎたころ、社会人時代に一度も転勤・転居をしていなかったので、思い切って奈良大学時代に好きになった奈良への転居を決断しました。気候も温暖で住み慣れた浜松を離れることには勇気が必要でした。スマホやパソコンをお使いの方はよくわかると思いますが、いわゆる人生に「再起動」をかけたのです。奈良に転居したのは 2017 年 6 月です。奈良に来て 3 年がやっと過ぎたところです。今年になりコロナ禍になるまでは、京都、奈良を満喫していました。ここにきて、仏教文化講演会や各種イベントも中止ばかりです。そこで興福寺仏教文化講座で感銘を受けた南都仏教の一つ「法相宗」の唯識論を独学でボソボソと進めています。唯識論は宗教ではなく一つの思想・哲学であると考えています。利他行が深層の心を清らかにする。その教えを実践すべく「奈良・人と自然の会」で、ボランティアによって、少しでも皆さまのお役に立てればと願っています。

字遊字感

奈良・高畑の景観保護

岡田 安弘

「偶然」が続いた。不思議に思い、書店で解説本を手にする。「そもそも偶然はない。全て必然」。不意打ちをくらう。目次だけで、立ち読みを退散した。

奈良市高畑の洋画家、中村一雄氏と紀矩子夫人に出会ったのが偶然の始まりだ。夫人は大津の高校でクラスメート、男子生徒の憧れだった。「マドンナは奈良の画家に嫁入り」。噂話が届く。奈良に長く住む友人に「画家の嫁で大津出身なんだけど？」と聞いてみた。即答に驚く。「娘がバイトをしていた『茶論』のママに違いない。夫婦とは親しくしている」と言う。

ほどなく、奈良に転勤。友人が「この偶然は神のさい配だ。会いに行こう」と案内役を買って出た。赤瓦の土塀をくり抜いた木戸。「本日休み」の札。仕方なく居酒屋へ。冷酒の土佐鶴300ml を二人で 20 本ほど空にした。暖簾をくぐるアベックに目が止まる。女学生の面影を残す。「紀矩ちゃんだ！」。

高校卒業後、電話も手紙も交わしていない。きょとんとする彼女。寄り添うのは夫の画家だろう。友人が「一杯やりませんか」と留守電を入れておいてくれた。粋な計らいに感謝。

悪童仲間でマドンナを囲む会を結成。画家に淡い嫉妬を抱く一行は、たびたび『茶論』に押し掛ける。懲りずに付き合ってくれた一雄氏。親しみを込めて「画伯」と呼ぶ仲になる。

「君と同じ名字の画家が大津にいるはずだが？」と問われる。弟のことだ。「えっ！本当か、日展を競った仲や。不思議な縁やなあ」。弟は大学進学を前に絵の世界を退いていた。

高畑は春日大社の禰宜らが住む社家町だった。志賀直哉が「暗夜行路」の後半を執筆した数寄屋造りの旧居と、南仏・プロバンスの田舎家を模した築百年の洋館が小道を挟んで並ぶ。ともに平成 12 年、登録有形文化財に指定され、異色の景観を形成している。観光客の人気スポットだ。

画伯の父、義夫氏も画家。レオナール・フジタと同時代をパリで過ごす。この洋館は義夫氏の仲間が建てた。転居したので義夫氏が買い取り、長男の一雄画伯が引き継ぐ。ヒマラヤスギの庭が、喫茶「たかばたけ茶論」だ。

2019 年 1 月、画伯は病魔に襲われ、みまかった。83 歳だった。精悍な顔が浮かぶ。

志賀直哉旧居の保存に力を尽くした。文豪の集う旧居は「高畑サロン」と呼ばれた。時移り厚生省の宿泊施設に。建て替え計画が浮上、取り壊しの阻止に立ち上がる。全国 3 万人の署名を集め、文化庁に直訴。奈良学園が全面保存の約束で買い取り、セミナーハウスとして活用されている。行政相手の 4 年に及ぶ険しい道のりは、著書「文化財保存の草の根運動」に記す。

今日出海・文化庁長官（当時）から「志賀さんの旧居よりも高畑の風土を守りなさい」と言われる。「ずしんときた」と、唇をかみしめていた。

晩年はメキシコや欧州のスケッチ紀行に出かけ、2011 年 10 月の渡仏は 1 か月に及ぶ。パリから一路、マルセイユへ。90 年前に父が滞在した丘陵地を目指し、父の作品と同じ風景を描く。長男陽一から旅先にメール。「日本ジュエリーアート展に入選した」。彫金作家としてのデビューだ。紀行日誌に「父を懐かしむと言うより、不思議な気持がこみあげた」と書いている。父への敬意、門出を飾った我が子への期待。短い言葉に思いがこもる。

交流 30 年、電話が最後の会話になる。「欧州に比べ日本は電柱が景観を損ねている。電柱を地下に移す運動に取り組む」と話していた。今さんの言葉が背中を押したのだろう。地元で住民説明会を始めたばかりの他界。その無念を思うと、せつない。

Gallery ならやま

▲オイルパステル「秋の収穫」　有元 康人

▲陶芸「箸置き」　桜木 晴代

▲クラフト「サンタクロース」
鈴木 末一

▲ペン画「ならやまの風景」　中村 勇二

▲水上池にオシドリがきました
冨江 文雄

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

活動日：　毎週木曜日　９：00～15：00
（前日水曜日、19 時前の NHKTV 天気予報にて午前中の降雨確率60%以上の場合は翌金曜日、木曜日の同予報も同様であれば金曜日も中止）
場　所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 16 haの里山林地
アクセス：ＪＲ平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分
　　または、奈良交通バス亭「佐保台西口」又は「平城大橋」から徒歩７分
携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）お椀、コップなど
お問い合わせ：冨井

12 月の活動について

３日：協働活動日（佐保自然の森　竹林整備）・アダプトプログラム
10 日：芋煮会　（予備日 17 日）
17 日：里山の現地調査と現状視察（幹事対象）
24 日：迎春準備・備品点検日

12 月　各グループ活動予定

グループ	活　動　予　定
里　山	樹木用コナラ伐採／マキ材玉切り・運搬／マキ割り／シイタケ採集 自然工作「マイ・サンタ」製作指導／佐保自然の森竹林整備／迎春準備（門松材料等）／倉庫内整理／ユートピア：松山平の整備
エコファーム	さつま芋、里芋、野菜の収穫／肥料小屋の棚整備／チップ入れ／ボカシ肥料づくり／迎春準備／用具、備品の整理・点検
景　観	整備：佐保自然の森竹林整備／養蜂～巣箱の修理、掃除／備品棚卸 ビオ：池、水路整備／タナゴ池の水抜き、調査 花班：花菖蒲園周辺の草取り、整地・ナデシコなどの霜よけ／ハヤトウリの撤去・モミジアオイ園／冬休みへの対策、迎春準備
パトロール	観察路整備／丸太階段補修、安全ロープ、表示板／展望広場新設工事／テント倉庫掃除整頓／コース：１－２－３－４
果　樹	果樹の苗木の植え付け／器具収納倉庫の建設／コンポスト肥料作り ウメの剪定／実りの森Ｂ地区の灌木整理

行 事 案 内

ならやま・芋煮会のご案内

日 時：12 月 10 日（木）12 時から
雨天は 17 日（木）に順延
場 所：ならやまベースキャンプ
持ち物：通常の活動日に準じ、主食は各自で。

三瀬 英信

今年を締めくくるならやまのイベント“芋煮会”の季節となりました。昨年はビジターを含め 100 名近いみなさんがならやまに集い多彩なメニューを囲みにぎやかに行われました。

今年はコロナ感染の予防を最重要視して細やかな“芋煮会”とすることになりました。

今年は例年にない猛暑に活動の自粛もあり給水不足で、幾分小ぶりの出来栄えでした。

すっかり“ならやま”になじんだ三種類の“種芋”を簡単に紹介しますと、「大野芋」：福井県大野市上庄地区で栽培されている大野市特産品の一つ。身がしまっていて煮崩れしにくく粘りの強い触感が特徴。「甚五右ヱ門芋」：山形県最上郡で室町時代から続く「一子相伝」とされる里芋。柔らかくぬめりが強く舌触りの滑らかさが特徴。

「海老芋」：京都の京丹後市などで生産され“京イモ”とも言われ、ねっとりとして舌触りが良く、煮崩れしにくいのが特徴。

今年の芋煮会は、ならやま産の里芋を取り混ぜた“ＴＨＥ芋煮”がメインです。

１月ならやま活動＆行事予告

＊ ならやま活動（木）
　７日 初出式（七草粥）
　　10 年継続会員植樹式（実りの森）
＊ 歴史文化クラブ主催
　12 日（火） 三輪山の初登拝

12 月歴史文化クラブ研修会のご案内

興福寺、大安寺の歩みと今
―明治期の廃仏毀釈を経て―

羽尻 嵩

今から 150 年前、日本全国の寺院は大きな危機に見舞われました。「廃仏毀釈」とよばれるその事件によって、日本全国にあった仏像や経典・仏具の多くが壊され、燃やされ、売却されました。壊されて廃寺となった寺院も沢山ありました。奈良県でも、大御輪寺、妙楽寺、内山永久寺は廃寺となりました。興福寺は大きな被害を受け、五重塔が売りに出され、寺には一時僧侶がいなくなりました。鹿児島県では、千以上あった寺が一時すべてなくなり、僧侶もいなくなりました。ほかの地域も似たような状況でした。今回は廃仏毀釈の被害が最も大きかった興福寺と、東大寺が建立されるまでは平城京で最大の規模を誇っていた大安寺を訪ね、その廃仏毀釈のお話も聴かせていただき、忘れ去られかけた歴史の暗部について、考えてみませんか。

〈実施要領〉
日 時：12 月 15 日（火）　雨天実施
集 合：9：00　近鉄奈良駅行基菩薩像前
持 物：弁当・飲物、雨具、防寒衣など
内 容：午前 9：10～10：00 興福寺の東金堂、国宝館拝観（拝観料 900 円、奈良市民はななまるカードを提示）
　10：00～11：00　講演 50 分、質問 10 分
　11：00～11：20　担当世話人の説明 20 分
移動（路線バスにて）　大安寺境内にて昼食
午後 1：00～3：00　大安寺、拝観と講演（拝観料 400 円）
募集人数：20～30 人
講演場所：両寺とも三密は避けられます。
申込先：　羽尻 嵩

八木 健彦

2020 年 11 月度幹事会報告

日時：10 月 27 日（火）14:00～16:30
参加者 19 名、欠席者 2 名

Ⅰ．会計、総務部より

1.会員動向：7 名退会、2 名入会、会員数 168 名（内家族会員 20 名）

2.会計報告：11 月から金銭出納簿・領収書締切日は毎月 20 日とする。

3.上期予算執行状況ならびに下期予算見通し
収支赤字が予想される。各 G でも経費支出の節減に努めて頂きたい。

Ⅱ．活動・行事関係に関わる課題・懸案事項

1.3 カ月活動スケジュール

・新春講演会は「新春ならやま研修会」とし実施するが懇親会は行わない。

・1 月 7 日の「初出式」、餅つきは中止し七草粥のみとする。10 年継続会員（対象者 11 名）の記念植樹は行う。

2.ならやまプロジェクト関係

・協働活動は会員 40 名参加で佐保自然の森の竹林整備作業とする。

・緑陰広場への真砂土搬入にも人数が必要。

・展望広場工事を 11 月 26 日から始める。

・ユートピアクラブは月 1 回の活動とし、その他の週は他 G の活動に参加する。

Ⅲ．企画、助成関係事業案件

1.20 周年記念事業企画会議、12 月 12 日に第 4 回企画会議。記念モニュメントの制作。
記念誌の会員ページは、アンケートを実施する。内容の例示と提案募集。

2.助成金関係の進捗状況について説明あり。

Ⅳ．　喫緊・提案事項

ガソリンと混合油の入れ間違いによる想定外の機器補修費が発生している。充分な管理を。

Ⅴ．　広報関係

・「私のふるさと」シリーズを終え、来年度から「私の〇〇」シリーズをスタート。

次回幹事会 11 月 24 日（火）10：00～

以上

＜イベントからもらった宝物＞

芋ほりイベントに娘親子が参加させていただきました。孫はならやまが大好きです。この日も朝早くおきて神戸からやって来ました。今年はコロナ禍のせいで午前中の芋ほりだけでしたがとても楽しんでいました。そしてこんな宝物をいただきました。それは翌朝の娘からの LINE メールでした。

『お父さんがイベントの最後に丁寧に里山のことを説明してくれました。里山のすばらしさ、そして、それを大切にしたい気持ち、それを伝えていきたい気持ち。丁寧に丁寧に伝えてくれました😊

今朝、ゲンキ（6 歳）が学校の宿題「秋を見つけた」という課題で、ならやまで収穫した柿、どんぐり、芋を持って出かけました。行くときに「ならのお山でとってきたと先生に伝えるんやで」と言ったら、ユウキ（4 歳）が「しゃとやまやで」とさとやまのことを言ってました。さらに「しゃとやまには、川もある。畑も。お水もたっぷり。だからカブトムシ、ちょうちょ、ドジョウ、ザリガニいっぱい、やで！おにいちゃん！わかった？」と玄関で説明してました。

お父さんのやっていることは、ゲンキ？ユウキにしっかり伝わっています❤️』

イベント担当として我田引水のようで面映ゆいのですが、4 歳の孫にも里山のことを伝えることができたのがうれしくて、そのまま紹介させていただきました。

60 年後には入会確実です(^^♪。

発行：奈良・人と自然の会
URL ： http://www.naranature.com
編集代表 Mail: editor@naranature.com

表紙写真：
竹林にはびこる枯死木の伐倒整備
佐保自然の森の竹林 0.8ha の整備。里山グループの力の見せ所！！